

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：13601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25870285

研究課題名(和文)戦後アヴァンギャルド芸術によるジャンルと国境の横断 - 安部公房を事例に

研究課題名(英文)Traversing Genres and Borders in Postwar Avant-Garde Art: The Case of Abe Kobo

研究代表者

友田 義行 (TOMODA, Yoshiyuki)

信州大学・学術研究院教育学系・准教授

研究者番号：40516803

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：戦後アヴァンギャルド芸術運動は、文学・映画・戯曲などのジャンルを横断してどのような表現を生み出したか。また、それらは国境を越えてどのように波及したか。本研究ではこうした問題を、戦後前衛芸術運動の若き旗手であった安部公房を事例に考察した。具体的には、小説・戯曲・映画と様々なジャンルに改作された『友達』、大坂万博上映作『1日240時間』、安部と協働した勅使河原宏監督の『サマー・ソルジャー』を分析した。また、大阪万博以来死蔵されていた『1日240時間』をデジタル復元し、再上映を実現した。研究成果は国際シンポジウム、研究会等での口頭発表で報告し、それらを基にした論文を学術雑誌および図書に発表した。

研究成果の概要(英文)：What expressions were created in Japan's post-war avant-garde arts movements, among genres such as literature, film, and theatre? As well, how did the expressions created in this way spread beyond national borders? My research considered such issues, focusing on the case of Abe Kobo, the youthful flagbearer of the postwar avant-garde arts movement. Specifically, I responded to the questions above through analyses of "Friends", which was remade in various genres including short story, play, and movie; "240 Hours in One Day," which was shown at the Expo '70 World's Fair in Osaka; and "Summer Soldiers," directed by Abe's long-time collaborator Teshigawara Hiroshi. In addition, I digitally restored "240 Hours in One Day," which had been in mothballs since Expo '70, and showed it for the first time since then.

The above research has been presented at international symposia, research associations. It has also been published in the form of papers in academic journals and books.

研究分野：日本近代文学・映画学

キーワード：日本近代文学 映画学 比較文学 前衛 アヴァンギャルド 表象文化 フィルム・アーカイブ

1. 研究開始当初の背景

戦後アヴァンギャルド運動の若き旗手であった安部公房に関する研究は、安部個人の文学的活動を探る従来の視点から、アヴァンギャルド運動や芸術的・政治的運動といった、同時代との相関からとらえようとする方向へシフトしてきた。また、海外研究者の間でも、安部文学の詩的言語と科学用語との関係や、満州体験の影響など、他分野や海外（植民地）との相関を探る動きが見てとれる。だが、アヴァンギャルド運動下において、複数ジャンルにわたった安部作品を往還的に読解したり、特定の芸術家とのコラボレーションに着目した考察は、研究代表者による研究をもってようやく緒についたばかりである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本の戦後アヴァンギャルド芸術が、いかに文学・映画・戯曲等のジャンルを横断したかを検証し、さらにそれが国境を越えてどのように波及していったかを究明することにある。とくに前衛芸術運動の旗手であった安部公房に注目し、彼がどのような言語・映像・身体パフォーマンスによる表現を生みだし、思想・社会・科学を表象したかを追究する。とりわけ、1950～80年代にかけて、小説から戯曲へ、さらに映画へとメディアミックスされながら国境を越えた作品や、日本万国博覧会で展示された作品に焦点を絞り、改作と受容の実態を解明する。

3. 研究の方法

(1) 映画『1日240時間』を復元

草月会館資料室等での調査および製作関係者への聞き取りを行い、本作の原型を把握する。調査結果に基づいてフィルム処理専門家に情報を提供し、修復・デジタル化・編集をおこなう。

(2) 『1日240時間』の文学的・映画的评价時代背景を精査し、シナリオと映画の両方を対象に、言語・映像テキストを往還的に読解する。

(3) 小説『闖入者』から戯曲『友達』へ各時代背景を精査し、小説と戯曲および演劇を対象に、テキストの変容経緯と解釈を開示する。

(4) 戯曲『友達』から映画『友達』へ日本と北欧それぞれの時代的・社会的背景を精査し、言語・映像テキストを往還的に読解する。

以上のような方法で研究を遂行する上で、工夫した点は次の通りである。まず、分析対象を、安部公房という一人の作家がジャンル横断的な改作をほどこした作品群や、国際的舞台および海外で上映された作品(『1日240時間』『闖入者』『友達』)とその関連作に絞る。

そして、それらの作品について、時代的社会的背景の精査を基盤としつつ、テキスト理論に基づき、複数ジャンルを横断した往還的な読解を行う。原作とそこから派生した作品との関係は一方向的でなく、相互関連的なものであるという視点に立つことで、小説のみでは読解困難であった特異点や、映画のみでは看取困難であった解釈やテキスト機能の独自性を開示できる。この手法は安部作品の世界的な普遍性と特質の究明に有効であり、文学・映画・演劇研究の各領域に応用できる。

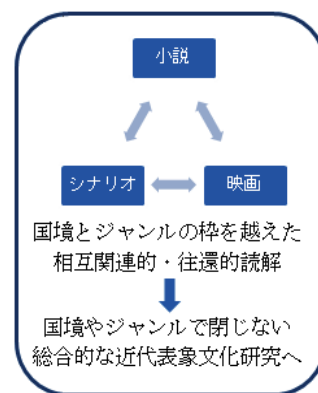
また、前項の研究目的を達成するために、以下のような施設や組織を利用する。文学・映画・演劇関連の資料については、草月会館資料室、日本自動車工業会、国立国会図書館、日本近代文学館、京都文化博物館、早稲田大学演劇博物館、川喜多記念映画文化財団等で調査するほか、フィルムセンター、放送ライブラリー等所蔵の視覚資料を活用する。

一般にはアクセス困難な貴重資料については、財団法人草月会および元勅使河原プロダクション関係者の支援・許諾を得て、勅使河原宏アトリエ跡および元勅使河原プロ倉庫の資料を活用する。また、資料調査のみではうかがい知れない製作事項についても、元勅使河原プロのスクリプター(吉田栄子氏)やプロデューサー(野村紀子氏)に聞き取りすることで解決していく。

『1日240時間』の復元については、フィルム所蔵元・著作権者(財団法人草月会)からすでに得た許諾に基づき、フィルム処理会社(IMAGICA ウェスト)に依頼する。映画『友達』については、配給元(トーキョーノーザンライツ)からすでに複製電子媒体の提供を受けており、分析の準備は整っている。

4. 研究成果

(1) 文学 映画 演劇といった領域を横断した往還的なテキスト読解に取り組み、単独では看取することの困難なテキスト解釈を開示することに成功した。



研究概念図

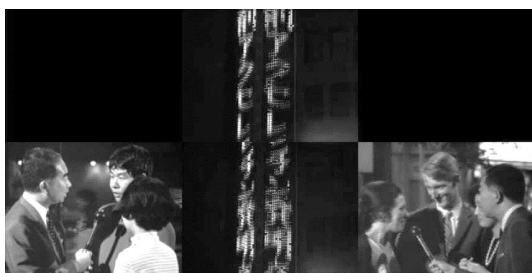
具体的には、小説から戯曲へと改作された安部公房の『闖入者』『友達』を比較し、さらに海外で映画化された『友達』をも含めて往還的に考察した。分析対象を領域ごとに限定しないことで、ジャンルを超えた安部公房の創作活動をより総合的に捉えることができた。また、海外やほかの芸術家への影響も明らかにした。

(2) 1960年代日本のアヴァンギャルド芸術運動の拠点となった草月会館を中心に、資料調査および聞き取り調査を行い、作品をめぐる新たな事実を発掘することができた。

(3) 元勅使河原プロダクションプロデューサーの野村紀子氏や同スクリプターの吉田栄子氏、財団法人草月会理事長勅使河原茜氏らの協力を得て、40年以上死蔵されていた大坂万博上映作『1日240時間』の復元プロジェクトを立ち上げた。IMAGICA ウェスト社の柴田幹太氏、記録映画保存センターの村山英世氏らからも技術提供を受け、デジタル化を実現し、復元上映を実施することができた。



映画『1日240時間』フィルム缶



復元された『1日240時間』

以上の研究成果を合計七件の口頭発表によって報告し、それらを基に合計四本の論文にまとめ、学術雑誌および図書(共著)に発表した。

また、記録映画アーカイブ・プロジェクト・ワークショップと、フランスで開催された国際シンポジウム Tradition in the Japanese cinema 2013 では、『1日240時間』の復元上映を実現した。前者には安部公房および勅使河原宏の親族・近親者も来場し、万博ファンをはじめ研究者以外の観衆にも大きな反響があった。後者は海外での初上映となり、国内外の人文科学研究者に大きなインパ

クを与えることができた。映画史研究・社会学などの領域における万博研究や小型映画研究のほか、映画と文学の比較研究など、複数の学問領域にわたる関心を喚起する研究資源を公開することができた。

復元映画については、今後も上映運動を続けてより多くの観衆に研究資源を提供するとともに、他領域の研究者とも協力して、作品の文化的意義を多角的に解明する展望を描いている。

国境とジャンルを超えた往還的なテキスト読解については、今後も安部公房と勅使河原宏をはじめとした、戦後前衛芸術運動に関わった芸術家たちの活動に焦点を当てて調査・考察を進めていくとともに、読解理論の明文化を図っていく展望である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

友田義行、地下茎状の原作 安部公房「友達」論、『文学』、15(6)、2014、49-66、査読無

〔学会発表〕(計7件)

友田義行、文学と映画の交響から残響へ 安部公房と勅使河原宏、公開シンポジウム「《交響》する現代日本における映画と文学」、2015年12月5日、キャンパスイノベーションセンター東京(東京都港区)

友田義行、勅使河原宏監督『サマー・ソルジャー』試論 安部公房の残響、第7回現代日本 映画 文学 関連研究会、2015年7月4日、北海道大学(北海道札幌市)

友田義行、安部公房原作映画『友達』試論、第5回現代日本 映画 文学 関連研究会、2014年9月10日、北海道大学(北海道札幌市)

友田義行、『闖入者』から複数の『友達』へ 安部公房の小説・戯曲・映画をめぐる、占領開拓期文化研究会、2014年8月31日、立命館大学(京都府京都市)

友田義行、ジャンルと国境の横断 安部公房『闖入者』『友達』について、第4回現代日本 映画 文学 関連研究会、2014年6月29日、信州大学教育学部(長野県長野市)

友田義行、『1日240時間』と安部公房・勅使河原宏、記録映画アーカイブ・プロジェクト第12回ワークショップ、2014年3月1日、東京大学(東京都文京区)

友田義行、The Tradition of film and

literature at the 1970 Osaka Exposition :
or the genesis of film and automobiles,
Tradition in the Japanese cinema、国際シ
ンポジウム Tradition in the Japanese
cinema 2013、2013年10月19日、ストラス
ブール(フランス)

〔図書〕(計3件)

Antonin BECHLER, Virginie FERMAUD,
Sandra SCHAAL 共編著・ADACHI-RABE Kayo,
Stephane LE ROUX, FUJII Jinshi, Olivier
MALOSSE, Benjamin THOMAS, 友田義行, La
Tradition dans le cinéma japonais ,印刷
中

丹羽美之・吉見俊哉共編著・友田義行、東
京大学出版会、『記録映画アーカイブ3 戦後
史の切断面 公害・大学紛争・大阪万博』、
印刷中

中村三春編著・中川成美・米村みゆき・志
村三代子・横濱雄二・友田義行・宮本明子、
森話社、『映画と文学 交響する想像力』、
2016、127-156 (334)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

友田 義行 (TOMODA, Yoshiyuki)
信州大学・学術研究院教育学系・准教授
研究者番号：40516803